

断酒

みどりの友

発行所 呉みどり断酒会
 事務局
 呉市押 込 5-12-25
 渡部 憲方
 郵便番号 737 - 0915
 電話 33 - 5571
 渡部 憲
 石橋 剛
 編集代表
 印刷 松広印刷



第 42 回 広島県断酒(福山)大会にて



語るは最高の治療

会計部長 曾根敏浩

飲まずにはいられなくなり、毎晩、家中のお酒が無くなるまで飲み続けてきた結果、飲酒生活末期は酒がぬけた頭で、身体で仕事に行ったことはありませんでした。

異常な飲酒を決定付けたのは十五年前、タイのバンコクで生活していたときの禁断症状でした。手の震えから始まり「幻覚・幻聴」を発症しました。

自分にしか聞こえない声を追いかけ、自分にしか見えない姿を追いかけ、マンション中を駆け回り廻りました。管理人やガードマンの部屋に押し入り、無理やり引きずり出して、追いかける手伝いを強要したそうです。(このマンションには気が狂った日本人がいるという話を後で聞きました。)

翌朝、病院に行きました。日本にいるはずの両親の音が隣から聞こえてくる。隣のビルの屋上で友人が手招きしている姿を見て点滴の針を引き抜き、腕から血を流しながら病院を抜け出す。挙句の果てには八階の病室の窓から外に出

ようとしたそうです。何人もの警備員に取り押さえられ注射で眠らされたそうです。退院後、間もなくして強制的に帰国となりました。その後もでたらめな飲酒生活は止まる事はありませんでした。

今、断酒会にお世話になって、「酒害体験を語ろう」と教えられました。酒での出来事であり多くの記憶がありません。だから、「そんなに迷惑をかけてきたのかな？」と思う事がありません。しかし、妻の発言を聞いた時に、とんでもないことをしてきたと思うと共に、その時の悲痛な気持ちがいっせいで分る様になりました。今でも例会での妻の発言にはドキドキします。

「語るは最高の治療」という言葉が断酒会にあります。妻の話を素直に聞き、人の体験談を真剣に聞き、過去を掘り起こして、自分の言葉でただひたすら率直に語り続ける事が大事であることを教えて頂いています。

「ありがとうございます。」

第42回広島県断酒大会

(NPO法人福山市断酒会発足5周年記念)

第42回広島県断酒大会(併、NPO法人福山市断酒会発足5周年記念大会)が、大会テーマ「絆」と題して六月十日、福山市にある福山市神辺文化会館に於いて、県内外から医療・行政四十七名、会員・家族五百七十一名、一般三十一名の計六百四十九名の参加者が集って盛大に開催された。

当会は観光バスにて会員・家族を合わせて四十九名が参加。亦、今大会は本人の立場から三名、家族の立場から二名の方達が自らの酒害体験、家族ぐるみの地獄の酒害体験、断酒を決意して断酒会に繋がりを、自らが酒害からの脱却を目指して行く日々の葛藤や、回復して行く過程の心境の変化を赤裸々に語られ、参加された方達の多くに共感を呼び、勇気を与えた様子。

記念講演では、三光病院院長・市川正浩先生が「積中不敗」と題し、市川先生の特徴ある口調で断酒会員としての生き方、考え方等、生きる道を説いて頂きました。

亦、呉みどりヶ丘病院院長・長尾澄雄先生には、今大会に於いての御所感を話して頂き、総合的な分析をして頂きました。



病院の隣りが私の母校



片山 久人 (本人)

お世話になっております。私は呉みどり断酒会の片山久人と申します。よろしくお願ひ致します。

私の酒歴を申し上げますと、私が24才の時、以前勤めていた会社で今の私の社長との出会いがあり、鉄工所を設立しました。私は、工場長という肩書きをもらい、連夜の徹夜、溶接からプログラミングをしての材料取りに多忙な日々に追われていました。そんな私の楽しみは、会社から帰宅しての一杯のお酒でした。

仕事は、いくら飲んでも気合いと根性で休むことはありませんでした。しかし、時が経ち段々とお酒の量が多くなり、今日は飲むまいと毎朝思うほど、出勤時はいつも気分が悪く最悪の状態になっていました。背中の上の方が重く、タバコを吸うと吐き気がする。今日こそは飲むまいと毎朝思うのです。会社に着き、朝の朝礼はおはようございますから始まるのです

が、毎晩の飲酒で昼までスローな日々。昼食は、会社の近くのうどん屋に直行してうどんをススリ込む。あア、鰹出汁でお酒が身体の中から抜けて行くのがわかる。やっぱり、日本人は鰹出汁じゃ、と思いつき口に出して車の中で言っていました。お酒が抜けてエンジン全開、フルパワーで図面を見て溶接加工もスムーズに進み、帰宅をするのですが、朝の辛い思いはスツカリ忘れ、アルコール消費じやと言つて焼酎を胃袋の中に水のごとく流し込む。お酒を味わつて飲むことなんて無かつた私でした。

毎日、母との口論で酒も隠され「あなたの目はなんネエ。早よう死にたいんか!!」とか言われ、



職場にて

会長が笑顔で握手を



前田 敏美 (本人)

夜に母が風呂に入ったと同時に近くのコンビニに缶ビールや缶酎ハイを買いに行き、それは雨の時でも、雪で寒い真冬でも、暑い真夏でも変らぬ隠れ酒でした。とうとう、幻聴が聞こえるようになり、呉みどりヶ丘病院に入院。

私は、呉みどりヶ丘病院の隣りの高校を入学・卒業したのですが、高校時代から呉みどりヶ丘病院が精神科と知っていました。まさか私が27年後にあの坂を登るとは、病院に入院するとは思ってもいませんでした。

長尾澄雄先生の治療と御指導のお陰でアルコール依存症という病気を知り、克服する術を教えて頂き、呉みどり断酒会に繋がることができ、一生涯のお酒をもう飲んだんじやと思ひ、お酒の無い生活を呉みどり断酒会の皆様の後について一歩一歩進んで行きたいと思っています。

亦、入院時に社長には大変迷惑を掛けたので、今は朝からトンカチ片手に一職人で頑張っています。そして、断酒継続三年に向けて一日一日を大切に断酒継続と例会出席を続けるつもりでいますので御指導の程、お願い致します。

呉みどり断酒会の前田敏美です。よろしく、お願い致します。

五十九歳まで病氣もせず丈夫な身体、入院してベットの上で我に返り思った事は、両親への感謝の心。福岡の貧しい百姓の四男。どこにでもいるチビだった男の子。親の愛を受け、十五歳まで田舎暮らし。十九歳まで福岡市内天神まで五分の処で住込み大工見習。二十歳の春、自分を試すため大阪へ。途中、ガソリンを盗んで広島止まり。その後、四十年は竹原市。今は、安芸の国、呉みどりヶ丘病院、長尾院長先生の下、ケアセンターで生活。もうすぐ二年を迎える。

私のお酒との出会いは五・六歳の頃、父に連れて行かれた酒席。叔父の真似して飲んだお酒で目を廻したのが最初。母に叱られ、その後は十六歳まで縁が無かった。その後、高校進学を諦め、失業対策。職業訓練校に願書を出しに行った朝、担当の先生から「若い

から大工にならないか!!」の一言で大工になる事に決めた。訓練校では初めて見る道具ばかりで、誰よりも早く登校して学んだ。一年後、最優秀賞で卒業し、市内の建設会社に優先斡旋を受け入社。昼も夜もない日々。誰よりも早く仕事を覚えたくて多くの職人さん達に個人指導を受け、十八歳で県営住宅工事を一人で任せられ、無事竣工。十九歳の春、親の家を古家屋の木材を再利用して新築。近所の評判は上乘だった。

話を酒歴に戻す。大工の仕事は工事の節目／＼に宴席が設けられ、酒は付き物だった。飲めない私は酒宴は苦手だった。無理して飲酒した翌朝はいつも二日酔い!!。二度と酒なんか飲むもんか!

!!。二度と酒なんか飲むもんか!



仲間と

と後悔の日々。二十歳の春、腕試しのつもりで大阪に向かうが、縁あって竹原市で仕事に就いた。助っ人二人を得て、大工の棟梁で仕事をしていた三十二歳の時、運命とも云える出会いが在り、本格的に棟梁人生を歩み始め、自身の野心と夢を追い続け、酒の虜となつて行つた三十年。後になつて知つたのだが、五十五歳から視力の衰え、手の震えが止まらず、思い通りの仕事ができなかつたのは、既にアルコール依存症になつてた事を。

アルコール潰けになつた身体になり、志半ばで辞めざるを得なくなつて自らうつた終止符。それから、入院までの生き地獄、独りぼつちの淋しき、惨めさ、情けなさ。五日間連続の竹原署員の説得と導きに依じて着いたのが呉みどりヶ丘病院の玄関。ダンボール箱一つ持つて座つた病院の長椅子。「俺も終つたなあ。」とホッと

した。言葉で言い表せない安堵感。今は、今も忘れられない。

今、今日の自分がここに居る。あの玄関で会う人、会う人と笑顔で会話ができる。そして、入院中にお世話になつた多くの人達。中でもオープンミーティングでの

呉みどり断酒会の渡部会長との会話。私は「お酒を止める？。お酒のない明日が来るはずはない」と豪語した。会長は「前田さんがみどり会に入会したら大変な事になる。」と笑顔で握手を求められた。

初めての例会。長い長い二時間。何故、例会が分からない？。分からないなら分かるまで行こう！！。三ヶ月経った頃から、少しずつ気持ちに変化してきた。今は安らぎ感で一杯。例会で家族の方達が話され、いつも願ってる普通の生活。

私の場合は酒ではなく、妻の半端でない浪費癖、放浪癖。三人の子供達が鏡となり、家事をさせず、外に出さずに今まで来れた。断酒会の話に戻す。入会から、もうすぐ二年目！！。酒と供に来た今までの人生。今からは、全く別の断酒の世界。歩み始め思う事。今まで、嫌気がさした事が山ほどあったけど、今は素面の自分が見え、今の自分が好きになって行く自分が居る。例会が終り、歩いて帰りながら二時間を振り返り、自分に重ね合わせる事で新たな自分を見付け、笑顔で一日断酒と思う。これからも、呉みどり断酒会の一つの歯車となり、歩き続けたい。

「親父さんを安心させてやれ」の一言



中林 智佐子
(アメシスト)

いつもお世話になります。呉みどり断酒会アメシストの中林智佐子です。よろしくお願ひします。四月で一年を迎えることができました。まさか、私が一年を迎えるとは思っていませんでした。今まで断酒した事がないからです。私は、みどりヶ丘病院へ三回入院しています。私がアルコール依存症と診断されたのは平成18年10月にみどりヶ丘病院に入院した時です。その一年前にうつ病になり、今思えば異常飲酒の始まりだったように思います。私は当時のことを殆ど覚えていません。当時は家庭もあり、子供二人と主人と幸せな生活をおくっていました。共働きで何不自由なく生活してたのですが、体調を崩し仕事ができなくなつて病院へ行くとうつ病と診断されました。結局退職し、一日中家に居るようにになりました。家事以外は殆どボオツとしていたそうです。段々と日が経つにつれ、主

人と二人で一日の疲れを癒やすのに飲んでた晩酌をお代わりをするようになりました。しかし、それも長くは続かず、いつの間にか屋から飲むようになりました。隠れ酒の始まりです。飲んだ事がばれないように量を足したり、自動販売機で焼酎パックを買って隠して飲んでました。その頃は朝から飲んでいました。段々、家事もできなくなり朝から飲んでいるのを知られて必死でごまかしてました。財布も取り上げられた時もあり、主人や息子のお金を取ったこともありました。家の中のお金を探しまわり飲んでいました。夕方、主人が帰つて来た時、酔つ払い寝ていた事もあり、量も増え連続飲酒になつて行きました。



福永さんと

もう止める！！と教え切れない程約束もしました。でも止める事はできず、娘に「母さん嘘は止めて正直に言つて！！。飲んだら飲んだと言つて！！」といつも言われたにもかかわらず、飲んでないの一点張りでした。結局、どうにもならなくなり入院となりました。そして、五年間の間に三回入院しました。退院後も飲んでしまい、離婚もしました。お酒を選んだのです。その頃はお酒の事しか頭になく、両親や家族の事など考えられませんでした。

三回目の退院が三月末でケアセンターで生活することになりました。父の病気のため、実家の福山へは帰れず、私はケアが嫌で院長先生に相談したら、「親父さんを安心させてやれ」の一言で決心し、何とか一年を迎える事ができました。これも院長先生をはじめ病棟・ケアのスタッフ、呉みどり断酒会の皆様のお陰だと感謝しています。皆様を支えて頂き、励まして頂き、有り難うございます。不器用な私ですが、これからも二年目に向かって焦らず、マイペースで例会出席、一日断酒で頑張つて行きたいと思つております。

酒が無くても笑える!!



井田 厚
(本人)

お世話になっております。私がこの度、断酒継続満一年を迎える事が出来たのは、呉みどり断酒会の皆様をはじめ、呉みどりヶ丘病院院長尾院長先生、病院の職員並びにケアセンターのスタッフの皆様、両親・家族、ケアと一緒に生活をする皆様等、多くの方々に支えて頂いたお陰であり、大変感謝をしております。

私がお酒を飲み始めたのは、高校一年生の秋頃からで、親が寝る前に飲んでいたウイスキーを興味本意で少し飲んでみると、美味しいとは感じませんでしたが、気分が凄く楽になり、ぐっすりと寝る事が出来たので、その時からお酒は私にとって精神安定剤兼睡眠薬となりました。

最初の頃は、酒を飲む量も頻度も少なかったのですが、高校三年生の頃には飲酒量も増え、二日酔いで登校する事も徐々に増えていきましました。

何とか高校を卒業する事が出来て、大学にも入学出来たのですが、大学三年生の頃、飲酒量も頻度も多くなり、お酒が原因で学校を休む、理由を付けてアルバイトを休む等、日常生活に飲酒が影響してきましました。

精神的にも飲酒するしないに関係なく不安定になり、自分でもこの状態が続くのは危険だと思ひ、親に相談して三原駅前にある個人経営の精神科クリニックを受診したところ、うつ病とアルコール依存症の疑いとので、抗うつ剤と抗酒剤のシアノマイドを処方してもらい、飲酒は禁忌と言われ、そこから私とアルコールとの戦いが始まりました。

一人でお酒を止めてみると、



生産活動の合間に

三ヶ月は止まっていますのですが、気分よく再飲酒。そんな事を繰り返しながら、何とか大学を卒業して社会人となって仕事に就くのですが、最初のうちは何とか遣つていても、いつも半年程で酒が原因でクビになる事の繰り返しでした。

その後も飲んではいけないうと自分で分かりながら飲酒を続ける生活をしてみました。そして、看護師を目指して病院で働きながら看護学校に行っていたのですが、後少しで卒業というところで酒が原因で退学となり、こんな自分なら生きていても仕方がないと、自殺を図ったのですが、何とか命を取り留め、本当はまだまだ生きたいのだと気付き、仕事も辞め、アルコール依存症と正面から向き合ひ、治療に専念する決心をしました。私が二十七才の時です。

それから、様々な精神科の病院で入院治療を受け、地元の断酒会に入会して精一杯努力はしましたが、再飲酒を繰り返しました。酒を止められない自分への葛藤から、親に暴言を吐くなど、周囲の人達に多くの迷惑を掛けました。挙げ句の果てには、自分が断酒できないうのは家族が悪いと言つて家

を出た結果、生活も何もかもどうする事も出来なくなり、警察に保護してもらい、呉みどりヶ丘病院に入院となりました。

呉みどりヶ丘病院ではスタッフの方達が、私を一人の人間として対等に接して下さい、本当に嬉しく有り難いと感じました。亦、病棟では、多くの自分と同じアルコール依存症の方達と生活をともにするなかで、お酒が無くても自分はこんなに話せる!!こんなに笑える!!。本当の素面の自分を思い出させて頂きました。

現在は、ケアセンターでお世話になりながら、生産活動やレクリエーション等を通じて心身の健康を保ちながら社会復帰…。やがては、自立生活に向けて日々精進しております。

これからも、断酒継続二年を目指して、一回一回の例会を大切に、無理をしないように!!。焦らないように!!を心掛け、一日断酒の大切さを思い起こしながら、一日一日を積み重ねて行き、断酒会の和の中で少しずつですが、目標達成に向けて前進して行ければと思っております。これからも、よろしくお願ひ致します。

「信じて下さい。もう二度と…」



吉川 幸江
(アメシスト)

お世話になっていきます。呉みどり断酒会の吉川幸江です。昨年の8月に呉みどりヶ丘病院を退院し、みどり断酒会に入会させて頂いてから一年を迎える事ができました。これも、皆様のお陰と心から感謝の気持ちでいっぱいです。

私のお酒が止まらなくなったのは、呉みどりヶ丘病院の女子病棟に入院をする約一年前でした。当時5才の一人息子と二人で呉に引っ越して来てから、すぐにお酒の飲み方が変わって行きました。最初は、ある程度の量を飲めば気持ちが悪くなったような気がして家事と育児の両立もできてました。しかし、飲み続けているうちに独りで家事と育児の両立とこれから先、幼い息子を抱えてどうやって生きて行けばいいのか…?という不安が押し掛かるようになり、苦しみ続けました。

この子は私独りで育てる。どんな事があっても独りで頑張って一

人前にする。その気持ちが大変な反面、生活は滅茶苦茶になって行き、こんなはずではなかった。私とこの子をこんな苦しい目に合わせた夫が許せなくなり、過ぎ去った日々の事を憎みながらお酒を飲む日が続きました。

苦しい日々を送り続けてた六年前の夏、呉みどりヶ丘病院に入院となりました。入院中も過去を引き摺りながら投げ遣りな気持ちで生活をしていたので問題行動を繰り返し続けました。問題を起こす度に私が言う言葉は「もう二度としません。信じて下さい。」でした。そんな言葉を何度も繰り返すと信用も失ってしまい、私の態度はまた悪くなって行きました。「もう二度と…」、「信じて下さい」と



仲良しの加藤ちゃんと

いう言葉。今思えば、お酒を飲んでいた頃にも何度也使っていた言葉でした。

飲んでいた頃と同じ気持ちのままではいけない。自分が変わらなないと周りの人達も変わってくれない。そう断酒会の先輩から教えて頂いてから、少しずつではありませんが私自身の思いも変わって行つたように思います。まず一歩ずつ自分のペースで歩いて行こう!!。そう思えるようになった。

断酒なんて私にとっては無理な事。そんな思い込みから抜け出す事が出来ずに長い間苦しみ続けて来ましたが、今は一日一日を過ごす中で何か一つ自分にとつて嬉しい事や楽しいと思える事があれば幸せだと思ひ、信じるようになっていきます。

お酒に溺れてしまい失つて来たモノはとても大きくて一人では抱えきれない問題もありますが、お酒だけには手を付ける事なく、素直な気持ちで断酒して行きたいと思つていきます。

これからも、一日断酒を積み重ね、例会出席を大切に一歩ずつ前進して行きたいと思つていきます。どうぞ、よろしくお願ひします。

第47回中国断酒ブロック
(山口)大会

今年は少し遅れた桜の花が見頃になった4月8日、山口市にある山口市市民会館に於いて、第47回中国断酒ブロック(山口)大会が、県内外の朋友千数十名が参加して盛大に開催された。

当会からも三十七名の会員・家族が参加。初参加者も3名いたが、参加者の多さと大会の雰囲気圧倒され、感動した様子。亦、全国トップを切つてのブロック大会であつた所為か、会場内外のあちこちで、久しぶりに再会した朋友達との親交を深める姿や楽しそうな会話が聞かれた。

本大会のテーマは「維新」―第二の否認。体験発表者は6名(本人4名、うちアメシスト1名、家族2名)で赤裸々な体験談を語られ、多くの参加者の共感を得た。

記念講演は、和歌山断酒道場長・上村千賀志氏が「私と第二の否認」と題して、上村氏が断酒道場に入る前までの体験を話された。

久しぶりの大きな大会に参加した所為か、帰りの車中では、大会の話題で持ち切りだった…!!。

第47回四国断酒ブロック
(香川)大会



四国ブロック(香川)大会

春、真つ盛りの4月22日、あいにくの雨天で眺望できなかったが、瀬戸大橋が開通するまでは四国の玄関口であった高松港を一望できるサンポートホール高松に於いて、第47回四国断酒ブロック(香川)大会が、千数十名の県内外からの朋友が集い、盛大に開催された。

当会からも三十一名の会員・家族が参加。四国大会初参加の方もいて、いつもと違った大会の雰囲気満喫した様子。ここでも、親交を深める光景があちこちで!!。

第68回松村断酒学校



今年もこの位置で食事!!

「断酒の原点」とも言われる松村断酒学校(5月12~14日)に、当会からは8名が参加、会場に着き、全断連参与の小林哲夫氏の様子を見つけ、握手をもらって大感激の初入校の山内鉄平さん。また、今回から長年司会を務められた渡部会長の勇退を受けて、当会の曾根敏浩さんが推薦され、緊張の中にも堂々と司会デビューを飾られた。

会場ではカーネーションを手にとり、各々がユニークなコメント、総勢三百余名の会場は、笑いと、「断酒幸福」に包まれた。

第18回山口県断酒セミナー



会場には一番乗り!!

初夏を思わせる5月26日~27日、第18回山口県断酒セミナーが山口県セミナーパークで開かれた。恒例となった当セミナーに当会は初参加者3名を含め、11名が参加。和気あいあいとした雰囲気の中で、初参加の3名も次第に馴染んで行き、休憩時間や研修後の自由時間には、消灯時間を忘れて他会の方達と体験談に花を咲かせて交流を深めた様子。そんな話の中で、何かを得たのか「来年も参加したい」との言葉を耳にし、今年も来て良かったと思いつつ、来年の再会を約束し、帰路についた。

第11回鳥取県断酒会
一泊研修会

連日猛暑続きの去る7月14~15日、第11回鳥取県断酒会一泊研修会が今年も好評のホテル「大山」を会場に開かれた。

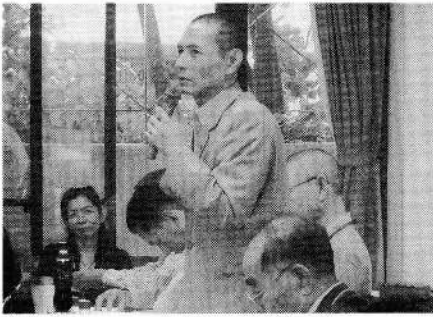
当会も年々参加者が増え、今年は13名が参加した。

「例会の会場を小さい子供達がいよいよ言いつながら走り廻るのめいじやないですか。酒を止めているからこそその「証し」だと思えますよ。これこそ真の「断酒幸福」だと思つてますので、どうぞ、小さいお子様同伴での参加も歓迎しますよ。」

幼児同伴での参加の可否を電話で打診した際の、杉原理事長の温かい言葉に心を打たれた。(なんて、フトコロの深い方だろう...と)。

そんな御好意のお陰もあり、子供を同伴での初参加となった北舩さん家族にとつては、忘れられない大山一泊研修となった事でしょう。

参加者も年々増えており、名峰大山の麓での二日間は、終始体験談のみの、研修会らしい研修会



発表する北舩さん



「来年も来ようね!!」

であったように思う。

また、恒例となった大山寺での早朝座禅も当会からも多くが参加。来年の参加を誓い合いながら、勇壮な大山をバックに記念写真を撮り、実り多い研修会も終了した。

寄付者御芳名

- (三月度) 呉 遠藤 勇様 一〇、〇〇〇円
- (五月度) 呉 堂脇正美様 一〇、〇〇〇円
- 〃 奥本弘子様 一〇、〇〇〇円
- (六月度) 呉みどりヶ丘病院 院長 長尾澄雄様 六〇、〇〇〇円
- (七月度) 呉 福永里美様 五、〇〇〇円
- (三〇七月度) 感謝箱 六、七〇七円

新入会員紹介

- 呉市中央三二四一 名田 信之
- 呉市広古新開四一九一七 中渡瀬陽一
- 呉市阿賀北一五三三四 第二大谷荘 平島 充
- 呉市中央二二一三三五〇五 柏原 孝男
- 呉市中央三二一八七〇七 高井 行雄

断酒継続おめでとう

☆一年 中林智佐子 4月2日

行事予定

- ☆二年 片山 久人 3月13日
- ☆〃 北舩 武康 5月8日
- ☆〃 福永 里美 6月30日
- ☆三年 堂脇 正美 5月16日
- ☆〃 熊野 克幸 7月18日
- ☆四年 廣野 幸則 4月2日
- 9月15〜17日 第42回広島県断酒会連合会研修会
- 10月21日 (国立江田島青少年交流の家)
- 10月28日 呉みどりヶ丘病院 創立42周年記念・特院
- 10月28日 (呉みどりヶ丘病院)
- 11月3〜4日 第49回全国(兵庫)大会 (ワールド記念ホール)
- 11月9日 第17回ふくやま一泊研修会 (福山みろくの里)
- 11月9日 断酒宣言の日「飲酒運転追放全国キャンペーン」(呉駅前)
- 11月10〜11日 第22回中国断酒セミナー (福山みろくの里)
- 12月5日 第46回酒なし忘年感謝会

平成24年6~7月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	ゲスト	院内会員	アセト	合計
土曜例会	9	280	104	46	9	623	116	1,178
水曜例会	8	255	94					349
家族の集い	2		15					15
ブロック例会	2	23	15					38
懇談会	2	2						2
特別院内例会	2	48	14					62
新会員を囲んで	2	17	7					24
第42回広島県断酒(福山)大会	1	35	14					49
第42回全断連評議員会・通常総会	1	1						1
第11回鳥取県断酒会一泊研修会	1	10	3					13
県連理事会	2	6						6
呉みどり断酒会役員会	2	20						20
合計		697	266	46	9	623	116	1,757

平成24年3~5月度例会動員数

行事名	回	正会員	家族会員	賛助会員	ゲスト	院内会員	アセト	合計
土曜例会	13	423	152	66	13	934	181	1,769
水曜例会	13	444	160					604
家族の集い	3		23					23
ブロック例会	3	34	18					52
懇談会	3	5						5
特別院内例会	3	80	22					102
新会員を囲んで	3	27	9					36
第47回中国断酒ブロック(山口)大会	1	24	13					37
第47回中国断酒ブロック(香川)大会	1	20	11					31
第68回松村断酒学校	1	5	3					8
第18回山口県断酒セミナー	1	9	2					11
県連理事会	3	17						17
呉みどり断酒会役員会	3	27						27
合計		1,115	413	66	13	934	181	2,722

○平成25年1月3日 (シテイプラザ・スキヤ) 平成25年新年合同初例会 (呉みどりヶ丘病院)